

|       |      |       |                          |
|-------|------|-------|--------------------------|
| 2 1   | 西尾   | 吉良中学校 | イシカワ リョウタロウ<br>氏名 石川 亮太郎 |
| 分科会番号 | 03 b | 分科会名  | 社会科教育（中学校）               |

## 1 主題設定の理由

社会の変化を見通すことが難しい現代社会においては、予測できない未来に向けて自らが社会を創り出していく力が必要である。これからさらなる技術発展が予想される社会において、生徒一人一人がその変化に対応し、生き抜いていくために身近にある社会的事象の意味や意義を多面的・多角的に考察し、判断できる力を身につけることが大切である。

本学級の生徒は、社会的事象に対して、ペアやグループ活動を通じて、自分なりに思いをもつことができるようになった。この力を軸に資料や仲間の考えなど複数の視点や立場から判断して自分の考えを再構築し、表現する力を伸ばしてほしいと考えた。そこで、よりよい社会づくりに向け、社会的な課題を自分事として捉え、根拠となる資料や仲間の考えをもとに、複数の視点や立場から論理的に自分の考えを説明する力を身につける生徒の姿を願い、本研究の主題を次のように設定した。

社会的な見方や考え方を働かせ、仲間とともに

よりよい社会づくりへの参画をめざす社会科の授業

「自動車販売の新時代」―世界の諸地域 アジア州― の実践を通して

## 2 研究の基本的な考え方

生徒たちが暮らす西尾市の吉良地区には、大きな自動車工場があり、生徒の保護者の約半数は自動車関係の仕事に就いている。本研究の単元では、日本の自動車企業が中国から撤退するニュースを取り上げ、中国の代わりとなる販売先を考える。その課題について正解がないからこそ、仲間の意見に耳を傾け、多面的・多角的に考察する必要がある、かつ実生活に直結した切実感をもてる教材であると言える。

主題・単元を踏まえ、目指す生徒像、仮説と手だてを、次のように考えた。

### 【目指す生徒像】

- I. 主体的に社会的事象を追究することができる生徒
- II. 社会的な見方や考え方を働かせながら学びを深めることができる生徒

### 【仮説1】

課題を自分事として考える教材との出会わせ方を工夫するとともに、生徒がもつ疑問や思いをつなげた単元を構想すれば、主体的に追究することができるだろう。

### 【仮説1に対する手だて】

- ①切実感をもてる教材との出会わせ方を工夫する。
- ②話し合いの中から生まれた疑問を単元の課題として設定する。

### 【仮説2】

仲間と関わり合う場を設定し、意図的指名や切り返し発問を工夫すれば、多面的・多角的な考察を促し、社会的な見方や考え方を働かせて、学びを深められるだろう。

### 【仮説2に対する手だて】

- ③視点やランキングを用いて自分の考えをもち、仲間と関わり合う場を設定する。
- ④意図的指名、切り返し・補助発問を工夫する。

## 3 研究の方法

本実践にあたって、以下のような指導計画を立て、下記の抽出生（生徒A）を設定し、抽出生の変容を追って手だての有効性を検証した。

### （1）生徒Aについて

生徒Aは、社会科の学習に意欲的に取り組んでおり、必要と思った情報をメモとして書き加える姿が見られる。これまでの学習課題では、既習事項をもとにした自分の考えをもつことができるが、一つの視点から捉えた考えを構築する傾向にある。そのため、本単元を通して、仲間と関わり合いながら、一つの視点だけでなく多面的・多角的に自分の考えを構築できるようになってほしい。

### （2）研究単位について

研究単元の目標と学習過程は、次の通りである。

### 【入口の姿】

**資料から自分の考えをもつことのできる生徒。**

### 【アジア州の概要と日本との貿易によるつながりを確認する。】

- ・日本の主要な貿易相手国リストと貿易品に関する資料を提示し、分かることや疑問に感じたことを問いかける。

### 【日本と中国の関わり方や経済発展の背景や課題について学習する。】

### 【日本の自動車企業が中国から撤退することについて話し合う。】

- ・日本の自動車企業が中国から撤退するニュースを資料として提示し、思ったことは何か問いかける。★手だて①
- ・話し合いの中から生まれた疑問を単元の課題として提示する。★手だて②

### 【中心課題】日本の自動車企業は、どの国で販売すればいいんだろう。

### 【新たな販売先の各候補地となる国について調べ学習を行う。】

- ・各候補地について、経済状況、地理的要因、自動車市場の3つの視点で調べ学習を行い、自分の候補地のランキングを考える。★手だて③

### 【全体で話し合う。】

- ・各候補地のランキングを全体で話し合う。その中で、再び撤退することがないように考える必要があることを問い直したり、それに気づいている生徒を意図的に指名したりする。

★手だて④



【日本の自動車企業がアジアの国に進出するうえで大切なことは何かをまとめる。】

・ゲストティチャー(自動車企業の方)から、生徒の考えた候補地への助言と企業の考える候補地について意見をいただく。

### 【出口の姿】

どの国で販売すればよいか、話し合いの中から新しい視点を入れて、自分の考えを再構築することができる。

## 4 実践と考察

(1) 仮説1 課題を自分事として考える教材との出会わせ方を工夫するとともに、生徒がもつ疑問や思いをつなげた単元を構想すれば、主体的に追究することができるだろう。

【ア】日本はアジア州の国々とどんなものを貿易しているのかな。(手だて①)

単元の導入では、アジア州の既存知識を問うのではなく、日本の貿易の輸出先のランキングを調べる時間を設定した。その後、日本の輸出品ランキングを調べ、2つのランキングから気づいたことを話し合う時間を設定した。

生徒Aは資料1から資料2へと学習を進める中で、日本とアジア州が自動車に関わる貿易で強いつながりがあることに気づいたと考えられる。しかし、日本とアジア州のつながりに気づけているものの、自分事とは捉えきれていないと考える。

そこで、資料3の日本の自動車企業が中国から撤退するニュースを資料として提示し、思ったことを話し合う機会を設けた。資料3と合わせて、名古屋港と三河港の輸出額、輸出品の資料を提示すると生徒たちは、食い入るように資料を読みながら、近くの生徒同士で自然と会話する様子が見られた。資料4は資料3を読み取った生徒Aの記述と、話し合いを終えた振り返りの記述である。その中には、自分の親が自動車の部品工場に働いており、自分の生活にも影響を及ぼすかもしれないという記述と中国に代わる候補地を考えてみたいという記

資料1: 生徒Aが記入した日本の貿易の輸出先ランキング

★日本とのつながり  
○日本の貿易の輸出先ランキングを調べてみよう! 『日本の主な貿易相手』JFTC キッズサイト

|    |      |         |     |         |        |
|----|------|---------|-----|---------|--------|
| 1位 | 中国   | (21.6%) | 6位  | 米国      | (4.4%) |
| 2位 | アメリカ | (17.8%) | 7位  | ドイツ     | (2.7%) |
| 3位 | 韓国   | (7.2%)  | 8位  | インドネシア  | (2.6%) |
| 4位 | タイ   | (6.9%)  | 9位  | オーストラリア | (2.5%) |
| 5位 | インド  | (4.7%)  | 10位 | マレーシア   | (2.1%) |

○アジアの国にマーカーを引いてみよう。  
○アジアの国への輸出が 58 %! 半分以上!  
日本とアジア州は貿易で 88 %! 圧倒的!

資料2: 生徒Aが記入した日本の主な輸出品ランキング

日本からアジアへの輸出は %!  
一では、どんなものを貿易しているのかな? 『日本の主な輸出品』JFTC キッズサイト

|    |       |         |     |       |        |
|----|-------|---------|-----|-------|--------|
| 1位 | 自動車   | (12.9%) | 6位  | 電気機械  | (3.6%) |
| 2位 | 自動車部品 | (5.9%)  | 7位  | 鉄鋼    | (3.0%) |
| 3位 | 自動車部品 | (4.6%)  | 8位  | 自動車部品 | (2.8%) |
| 4位 | 自動車部品 | (4.3%)  | 9位  | 自動車部品 | (2.5%) |
| 5位 | 自動車部品 | (4.0%)  | 10位 | 自動車部品 | (2.5%) |

一どんなモノをどの国に多く貿易しているのかな?  
自動車にかかわるモノとアジアは関係している!

資料3: 日本の自動車企業が中国から撤退するニュース

### 三菱自動車 中国でのエンジン生産終了 中国市場から完全撤退へ

2025年7月22日 19時10分

三菱自動車工業は中国の合弁会社で行っているエンジンの生産を終了すると発表しました。急速に進むEV=電気自動車へのシフトで需要が見込めなくなったことが要因だとしていて、これでは中国市場からは、完全に撤退することになります。

三菱自動車は2023年、中国メーカーとの合弁事業で行ってきた車の生産を終了しましたが、その後も別の中国メーカーとの合弁会社で現地の自動車メーカー向けにエンジンの生産と供給を続けてきました。

発表によりますと、三菱自動車は中国でのエンジンの事業も終了することを決め、6月、合弁関係を解消したということです。

EV=電気自動車へのシフトでエンジンの需要が見込めなくなったことが要因だとしていて、これで中国市場からは完全に撤退する形となります。

三菱自動車が1日発表した2023年4～12月期の連結決算は、純利益が前年同期比21%減の1027億円だった。販売車種の構成改善や円安効果などで営業増益だったが、中国での生産撤退に伴う関連損失246億円を特別損失に計上したことが響いた。



視点やランキングを用いて、自分の考えをもつことで、「仲間は どうして そう思ったのか 知りたい。」という多面的・多角的な考察を促し、仲間と積極的に関わる工夫となったと捉えることができる。

生徒Aは、自分の意見を発表した後、しばらく発言することはなかったが、時おり自分の考えをまとめたワークシートと調べ学習の資料をめくりながら、仲間の発言に聞き入っていた様子があった。それぞれが自分の意見をもった状態で話し合いを始めたことが、生徒Aの深い考察へとつながったことが伺えたと言える。

#### 【イ】候補地のランキングについて話し合おう。(手だて④)

中心課題について、それぞれがこれまでの学習で獲得した知識をもとに、自動車販売の候補地について、自分の考えを全体で共有した。自動車保有率が高いから自動車がよく売れていると考えた生徒と、自動車保有率が低いからこれから自動車がよく売れると考えた生徒の発言で、全体の発言が停滞した。考える時間が生まれたのをきっかけに生徒Bへ意図的指名を行った。生徒Bは、保有率が低く、経済成長率が増加傾向にあることから、今後も販売台数が伸びていくことを予想し、インドネシアを第1候補としているという考えを仲間に伝えた。

#### 資料8 自動車保有率と経済成長率についての話し合い(抜粋)

生徒C：少数派かもしれないけど、サウジアラビアがよくて、自動車保有率が高いから、自動車がよく売れているってことだし、日本の高級車が人気だよ。

生徒A：自動車保有率が低いってことは、車を持っていない人がこれから車を買うってことだから、インドが保有率は1番低いからやっぱりいいんじゃないのかな。(発言が止まり、自然にそれぞれ考えたり、近くの人と話し始める。)

教師：では、Bさんは、どう？

生徒B：僕は、インドネシア推しは変わらないんだけど、自動車保有率が低いだけじゃわからなくて、経済成長率が増加してることとセットだから、これから車を買う人が増えるってことだと思う。インドは保有率は低いほうだけど、成長率は変化が少ないし、日本が苦手なEVが人気だったり、中国メーカーがすでに参入してるから、人口は魅力だけどやっぱり2位。(意図的指名)

生徒D：車を持っているなら、その国で車はあんまり売れないか。

生徒C：じゃあ、韓国は経済成長率が減少傾向だから、これからあんまり売れないってこと？

生徒B：うん。今すぐに、たくさん売れないかもしれないけど、これから、継続的に売れそうな国のが、せっかくならいいと思うけど。(意図的指名)

生徒A：えー。考え直さないといかんじゃん。(座席でのつぶやき)

生徒Aは、意図的指名によって自分の意見を仲間と交流させたことで、「自動車保有率と経済成長率から考える、自動車販売の将来性と持続性」という視点に気づき、自分の考えを再構築しようとすることができた。

この授業を通して、日本の自動車企業が再び撤退することがないように考えることができ、教師の意図的指名によって、将来性や持続性について、自動車保有率や経済成長率に着目して考えるきっかけを得ることができた。

#### 資料9:生徒Aの振り返り

##### ランキングを変えた理由、またはどうして変えなかったのかの理由

はじめは、インド1位にしていたけど、保有率と経済成長率で考えると、インドは中国に比べて売れなくなるかもしれないし、インドネシアはこれから売れそうだし、長く売れ続けるという観点から、韓国に車を売っている人が多いから4位に下げた。経済成長率が減少傾向だから、韓国は4位。韓国はと見るとそこを考えると、インドを1位にしてあげた。あと企業の人たちは、やっぱり売りたいと思うのが、関心がある。

改めてランキングを考える時間を設けると、生徒Aの第1候補は、インドからインドネ

